

KOZOOM サロン 7/17 の海の記念日に因んで 海の思い出

2023-7-8

野口幹夫

清水様のご提題に応えたいと思います。

今朝いつものようにラジオ体操のために茅ヶ崎海岸に出ましたら、幟が立っていました。近くの熊野神社の講中が立てたもので浜降祭の前触れの様です。茅ヶ崎海岸は毎年海の記念日に浜降祭が行われます。しばらくコロナのため中止していましたが今年はやることになったようです。近隣の神社が総出で早朝神輿を担ぎだし海岸に集結する祭りです。私も何度か見に行きました。今年も楽しみにしています。



しかし今回海の思い出で書きたいのはこれではありません。



2014年2月に行った八丈島旅行で体験した本物の「黒潮流れる海」です。毎年2月は我ら夫婦の誕生日を祝う小旅行する習慣があり、この八丈島旅行もその一つで特別な目的はなかったのです。しかし、はじめての東海汽船の船旅でした。夜10時竹芝橋を出港、次の朝早朝三宅島と御蔵島を經由して9時20分八丈島に着きました。そこから2泊とレンタカーでの島周回の旅でしたが、その思いがけない発見をしたのです。

この島は6000年前富士山の噴火に追われるように湘南海岸を逃げ出したある縄文人の一行が丸木舟の長旅をして、ついにここに移住した島だったのです。それから数千年彼らは生き延び原住民となりました。後世、江戸幕府は役人を派遣し、ここを罪人の放逐場としたのですが、それは一部の人間で隔離されており、原住民は縄文人の子孫であり、何よりの証拠はここで話されていた言葉は日本語の原型 縄文語だったのです。2008年以来日本各地を回り日本の縄文時代を探ってきたのですが、この発見は偶然のことで狂喜でした。八丈島を取り囲む黒潮の海、それはこんな奇跡を作り出した海だったのです。



その詳しい報告は高津5期HP交遊の広場の2015年版に掲載されているので、今回は詳しくは述べません。興味のあることは次のURLからご覧ください。

[八丈島で出会えた縄文ことば \(coocan.jp\)](http://coocan.jp)